

SAMPLE お試し 試し読み用 試読用

# 自縛霊

ワケありなんです！



あんぷらぐ

荒縄工房

## SM小説

SAMPLE お試し 試し読み用 試読用

SAMPLE お試し 試し読み用 試読用

S  
M  
小説

# 自縛霊



ワケありません！

めんぷらぐ著

元縄工房・発行

本作品はすべてフィクションであり、実在する人物・地名・団体とは一切関係ありません。また、特定の個人、団体、宗教、人種、性別などを誹謗中傷する意図はありません。

めんぷらぐ

S M雑誌に「仲ゆうじ」名でS M小説を執筆して作家活動をスタート。その後、編集の仕事に携わる。九〇年代よりネットで複数のペンネームで小説を執筆。二〇一一年「荒縄工房」より「あんぷらぐど」名義で独自の自虐的S M小説、伝奇S M小説などを発表。二〇一九年「あんぷらぐ」に改名。東京在住。

# 目次

## SAMPLE お試し 試し読み用 試し読み用

ソクゾクしちやう	6
ターコイズブルー	3 3
壊れた人形のように	6 7
肉便器	9 3
吊し上げ	1 1 9
刑科者	1 4 7
人形	1 7 4
漬け込む	2 2 1
お散歩	2 5 7
スカアイドル	2 8 4
特訓	3 2 4

黄泉  
アイドル  
3  
5  
7  
奥付  
3  
6  
0

ゾクゾクしちゃう

なんか、ゾクゾクする。

それが第一印象。

「荷物はいつ来るんですか？」

不動産屋の桑野さんが、カギをくれた。

「あ、これだけなんで」

スーツケースとキャリーバック。あとはコインロッカーだから。ロッカーの方がたぶん、ここよりも安全。

「布団、とかは？」

「買う、かも……」

すっかり忘れていた。あいつの部屋に置いたままで、

取りになんて行きたくない。もともと私の布団だったけど、あいつが自分のものとして使っているから、もういいらない。

「貸してあげましょうか」

「え？」

桑野さんは、かなり髪が薄いオジサン。駅前不動産ではそのお父さんって人がえらそうにしていたから、若いのかなと思ったけど、やっぱり若くはない。私の父親より上ぐらいかも。

「だって、大葉理菜ちゃんでしょ。布団ぐらい……」

「はあ」

こいつ、知ってたのか。

これまで一切、そんなそぶりも見せず、彼のオヤジかめちやくちや眼光鋭く値踏みしてきたのに対して、彼は最初から揉み手だったもの。こっちの素姓を、知っていたからなのだ。

ちなみに大葉理菜は本名ではない。

「先月のフェス、行きましたよ」

「はあ」

来たのか。あれに。

悪夢のような最悪のフェスに。つまり、彼は見たのに。私が地下アイドル界からも追放されてしまった瞬間を。

「応援してたんですけどねえ」



「ありがとうございます！」

「残念です。がんばってくださいね」

習慣となっている両手握手をしようとしたが、彼はくるつと向こうを向いてしまっていた。

「デビルスターワールドエンドって、やっぱりムリがあったんですよ」

とぼとぼと帰っていく。

なんだよ。私のファンではないのか。

デビルスターワールドエンドが解散となつて、十六人のアイドルが野に放たれる、というイベントをフェスに組みこんだのはいいんだけど、野に放たれたのは私だけで、ほかの連中は次々、新ユニットの発表やら、

他のグループへの参加表明とかしやがって。

なんだ、あいつら。私が邪魔だっただけか。

デビルスターワールドエンドを八カ月で潰したのは、私です。もう、それでもいい。ツイッターのタイトルをそうしてやろう。

なんかしないと完全に捨てられる。

ため息をついて、昼間に下見をしたアパートに向き直った。コンクリート、モルタル。四階建て。エレベーターなし。第四グリーンハイツ四〇四号室。第一から第三は全部、マンションに建て替えられて、これだけまだ築四十年のまま残っている。耐震補強はしたというけど。

ここは建て直されず、近々、取り壊されて公園にされてしまう。それまでには、こっちもこんなところを出て行くに決まっているので、気にしない。

ウルトラマンとか怪獣とかに潰される、あの団地だ。一階にいくのにも、三段の階段がある。そこからグルグルと四階までコンクリートの階段をのぼるのだ。

汗だくになって四階。涼しい風とか来るかと思ったが、じとつとした風しか来ない。眺めもよくない。裏は黒っぽい水が少し流れている川で、子どもが入らないように高いフェンスで囲まれている。その向こうは河川敷があり、野球場とサッカー場がある。そして土手があつて、さらに向こうには鉄塔があり、高級そう

なマンションがズラズラと並んでいた。

あっちは駅にも近く、セレブっぽい街なのだが、こっちはさびれた街。

見せつけるなあ。

四〇四号室は一番奥。ごろごろと荷物を転がして辿り着く。鉄のドアは耐震補強時に塗り替えたので、鮮やかな緑色。

カギを開けて、ドアを引っ張った。  
真っ暗。

夕方とはいえ外はまだ明るいの。

これだけ日当たりが悪いってスゴイ。ワケあり物件。だから格安。私はデビルなんだから、怖いものなんて

ない。

電気をつけたら、いまどきそんなことするかっていうぐらい、バチバチってなつて、やつとついた。

ガランとした六畳。そこに三畳ぐらいのキッチン。狭い一体型のバス・トイレのユニット。

荷物を引っ張りあげて、玄関をしめた。

カーテンもない。ベランダは狭い。真新しいステレスの物干し竿があつた。その向こうはさびれた街。三階建てぐらいの木造住宅が多く、たまに町工場や倉庫、十二階ぐらいのマンションがある。建て直したグリーンハイツだ。いつかああいうところに住みたい。北向きの部屋。西側には明り取りの窓があるものの

解放感はない。そこは妙に明るいの、部屋全体を照らす力はない。

荷物を放り出した。

そして三十分ぐらい泣いた。

ここに書けないぐらい、時系列メチャクチャに酷いことばかり一度に起きた。泣いてもいいでしょ。

彼と別れた。いや、私が出た。布団とかもろもろ捨ててきた。あいつの彼女が私の友達だと思っていたやつで、そいつは来週、大手芸能プロに入ることが決まったと、さつき別のやつがLINEで語っていた。

「どうせ売れねえ」

みんなで呟いていたが、悪口に参加する気にもなれ

なかった。下手に顔を出せば、こっちがズタズタにされそう。

かっこつけて出て来たら、二人で貯めた貯金箱を忘れてきたことを思い出した。頭の中では十数万入っているはずだった。せめて、あれは持ってくるべきだった。

彼からメールが来ていた。

「督促状とかは、どこに転送すればいいの？ 次の住所、教えて」

あの野郎。借金はこっちかよ。返事しない。あまりにも悔しくて、涙がピタツと止まってしまった。

パソコンをつける気にもなれない。

今日はこのまま寝よう。布団はないが、ごろごろしよう。

ジーンズにトレーナーのまま畳に倒れた。スーツケースからコートを引っ張り出して丸めて枕にした。

肌寒いので、セーターを出した。

まだ寒いのでほかの服も出してみた。

「だめだ、寝れない」

おそらく二時間ぐらいは寝たと思うが、寒くて起きてしまった。異常に寒い。

ワケありなのだから、なにか出るのかもしれない。

「なんでもいいから出てきやがれ」



水道の水を飲み、そう言ってやった。

トイレに行くと、流れが悪くてゴロゴロと妙な音がして部屋全体が振動した。そういう意味のワケありなのか。

「だから、ちよつと下着はつけないでおこうね」

そう言っつて、トイレでおろしたパンツを完全に脱いでしまい、部屋に戻つた。寒いのに。

「もう寒くないもの」

むしろ暑い。

そんなはずはないけど、頭がそうなってる。大葉理菜、完全におかしくなりました宣言でもするか。

ゆつくり脱ぐの。真っ裸になるの。そしてベランダ

に出る。夜の街。

その場でオナニーするの。

なんで！

指が勝手に股間にすべりこむ。右手はオツパイを掴んでいる。はじめて感じるような柔らかな手触りに酔ってしまう。

自分の手じゃないみたい。

どうしたの。なにがあつたの。

すごく感じてきた。

「うううう、バカ野郎」

そう言いながら、イク。立ったまま。

おしっこしたばかりなのに、少し漏れたみたいにな

って、膝まで濡れていた。

流し台で手を洗って、ティッシュで股間を拭いた。  
あり得ない。こんなの自分じゃない。

「はじめまして。鈴木です」

これは悪い夢なのだろう。いろんなことがあって、  
私は混乱している。寝るのだ。朝になれば、すべては  
元に戻らないまでも、いまよりはマシ。朝になったら、  
ここに来る途中で見た喫茶店でモーニングを食べよう。  
やることはいろいろある。カーテンも欲しい。

「それから、ロープ。蠟燭。手錠もいいよね」

自分ががんにがらめにされて、苦しんでいる夢を見た。

朝。早く目が覚めていた。

全裸だった。

完全に、おかしくなったらしい。

「おはようございます」

確実に、おかしくなった。頭の中で男の音が響く。

誰もいない。いるはずはないし、そもそも声が聞こえる  
と錯覚することが異常だ。

「鈴木秋夫です。レイやってます」

あり得ないこと。怖いとかではなく、あつてはならないこと。  
聞いたこともない男の音がするなんて。完全  
にいかれた。

「だから。この部屋に棲みついてるレイなんですけど

奥付

お読みいただき、ありがとうございました。

二〇二四年六月刊行 第一版

著作権 あんぷらぐ（あんぷらぐど）（荒縄工房）

荒縄工房の情報は下記サイトへ

●ブログ「荒縄工房」

●ホームページ

●荒縄工房 S M 研究室

●今日も上機嫌ってわけないだろ

コメント、メッセージ歓迎。ご意見、ご感想、ご提案など随時、ブログで受付中。